

平成 28 年度 学校評価報告書 (実施結果)

視 点	取 組 の 内 容		校 内 評 価		学校関係者評価 (3月16日実施)	総合評価 (3月30日実施)		
	具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
1	教育課程・学習指導	<p>①個に応じた指導、補習等により基礎学力の定着と向上を図る。また、外部教育力を活用することで企業や大学等のニーズにも対応可能な教育課程の編成について研究する。</p> <p>②効果的な授業研修会を実施し、協働的な学びの指導方法、指導と評価の関連等について組織的に取り組む。</p> <p>③資格取得の機会拡大を図るとともに、各工業科が同質の補習指導体制を構築するために各科の連携を強化する。</p>	<p>①「工業高校として育成すべき人物像」について教職員間で共通認識を持ち、基礎学力向上について組織的な取り組みが行えたか。</p> <p>②研修会を何度開催し、どのような成果が上があったか。</p> <p>③資格取得における合格率、特別講習の受講者数、補習の参加人数。</p>	<p>①経験に基づいて獲得すべき学力を中心に、1年生1学期基礎教科の達成度について全科の教職員で把握したのちに、放課後及び夏季休業中を利用して補習を行った。昨年度より多くの講座で基礎学力の充実だけでなく、各種資格取得や進学のための補習も行うことができた。</p> <p>②・外部講師を招いて授業改善研修会を開催し、アクティブラーニングへの理解を深めた。</p> <p>・近隣中学のアクティブラーニング研修、授業力向上研修会等に参加した。</p> <p>③年度当初に検定や資格の日程一覧を生徒向けに配付し、資格取得の機会拡大を図った。今年度は新たに国語科・英語科の協力を得て、日本漢字能力検定とリスニング英語検定、実用英語技能検定を導入し成果を上げた。</p>	<p>①どの教科もきめ細かな指導を行ったが、通常の集団授業の中では集中しきれず諦める生徒が見受けられた。各教科の授業指導内容をうけ、ICT 活用の機器整備を行い、さらなる内容の充実を図るための工夫や教科間の情報共有が今後の課題である。</p> <p>②個々の授業ではさまざまな工夫やアクティブラーニングへの取組が見られるが、組織的な取組としては不十分な点がある。</p> <p>③補習の時間が十分に確保できず、合格率が低い検定や資格がある。3科の連携による指導を試みても、生徒側からすると他科の教員による補習は敷居が高く感じているようで、このあたりを含めて改善していく必要がある。</p>	<p>①・基礎学力を身につけることでその後の技術・技能の習得がスムーズになるので、教科間連携等を充実させ、一層力を入れて取り組んで欲しい。</p> <p>・学習習慣を身につけさせるには入学当初からの指導が効果的なので、学校の取組を推進していただきたい。</p> <p>・多くの生徒が自らの目標に向かって積極的に補習に参加する環境を整えてもらいたい。</p> <p>・ものづくりの授業を受けられるのは生徒たちにとって財産になる。</p> <p>・英検には今後も取り組んでもらいたい。</p> <p>・ICT の整備により生徒が興味を持って楽しく学べる環境整備が必要である。</p> <p>②・教職員がアクティブラーニングを理解し実践しようという意識を持っているかが推進のキーポイントである。</p> <p>・アクティブラーニングの浸透には相互の授業見学等地道な取組を重ねるしかない。</p> <p>③・3年生になってから資格取得の重要性に気づく生徒もいることから、早期に自覚を持ち余裕を持って取り組めるようにしてほしい。</p> <p>・安易な資格取得競争に陥らないよう配慮してほしい。</p> <p>・進路指導と連携し、どの資格を取得するといいかという助言等もあるとよい。</p> <p>・本当に必要な資格は何かという検討も必要。普段の生活が反映することも指導して欲しい。</p>	<p>①・1年生1学期基礎教科の達成度について全教職員で情報共有したことで、その後の補習を効果的に展開することができた。</p> <p>・スモールステップによる学習の積み重ねや放課後及び長期休業中を利用した補習や個別指導等、きめ細かな指導を各教科で行い成果を上げた。</p> <p>・プロジェクトチームによる教育課程の再編成に向けた検討を重ね、学校行事の精選やクラス編成の見直しも含め議論が深まったが、結論を出すには至らなかった。</p> <p>②・アクティブラーニングについて外部講師による研修会を開催した結果、教員の理解が深まった。</p> <p>・近隣中学校との連携を深め、授業力向上研修会への積極的な参加が見られた。</p> <p>・今後、具体的な実践にどう繋げていくかが課題である。</p> <p>③・国家資格合格者は6名増、合格率も40.2%にアップした。</p> <p>・実技講習会への参加者は若干減少したが、合格率は98.4%にアップした。</p> <p>・今年度からリスニング英語検定や実用英語技能検定等も導入し、実用英語技能検定で準2級に1名合格した。</p> <p>・本当に必要な資格は何か、取得した資格をどう生かすか等についての検討が必要である。</p>	<p>①・今後の高校改革に対応できるよう、本校のあり方、育成すべき生徒像を明確化し、教職員、保護者、地域の間で共通理解をもつ。</p> <p>・平成30年度の新カリキュラム完成に向け、プロジェクトチームを中心に具体的なカリキュラム案を早急に作成する。</p> <p>・行事の精選等、授業時間の充実についても更に検討を進める。</p> <p>②相互の授業見学等の方策を見直し、他校での研修会への参加を促進することで、アクティブラーニングの積極的な導入と定着に繋げる。</p> <p>③進路指導と資格取得をリンクさせ、個々の生徒のニーズに適した資格についてアドバイスを行う等、生徒への取得奨励の働きかけ方を検討する。</p>

2	生徒指導・支援	<p>①生徒指導方針の定着と全職員の統一した指導を実践する。</p> <p>②生徒会活動や行事について、生徒が自ら考え自ら行動する姿勢を育成する。</p> <p>③支援会議の定期的開催、外部機関との連携強化、職員・生徒・保護者への情報発信の推進により支援体制の充実を図る。</p>	<p>①組織的、段階的な生徒指導ができたか。</p> <p>②生徒会活動や行事を生徒による発案や役割分担で行うことができたか。</p> <p>③ケース会議の開催回数、外部機関や保護者との連携促進はできたか。</p>	<p>①「生活指導のてびき」を作成し、年度当初に全職員に配布し、生徒指導方針と対応について提示した。また、校外での生徒の情報が共有できるように努めた。</p> <p>②全ての生徒会活動や行事の運営を、生徒主体で行うよう支援した。</p> <p>③ニーズの吸い上げにより3名3回のケース会議の実施、SCやSSWについては保護者からの相談を含めて延べ45名の調整をし個別対応を行った。</p>	<p>①遅刻・頭髮・服装等の指導について全職員の協力が得られたが、まだ、指導方針や段階的な指導手順について十分に浸透していない部分もあるので、改善策を講じたい。</p> <p>②企画段階から生徒の活動を観察し、支援の改善点を見出す。</p> <p>③SOSチェックリストでの定期的な確認に限らない、ニーズの洗い出しを検討する。</p>	<p>①・生活指導については、なぜそうしなければならないかという目的と意味を理解させることが重要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ発表会等の機会を利用して、生徒自らが生活指導の必要性を全校生徒に伝えるような取組も一つの方法ではないか。 ・生活指導は職員による温度差がないようにしてほしい。 <p>②・文化祭の運営等、成果が上がっていることがわかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育祭に応援や練習を取り入れることで意識を向上させることができるのではないか。 <p>③様々な手段による生徒支援は重要な課題であり、今後とも引き続き取組を進めてほしい。</p>	<p>①・年度当初に生徒指導方針を全職員で再確認し、統一した指導の実践に一定の成果を上げることができたが、組織的な指導について更に体制を整える必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活指導支援グループを中心に組織的な指導を行い、生徒情報の共有や迅速な外部対応について成果を上げた。 <p>②・生徒主体による生徒会活動や行事の運営が定着し、生徒が自ら考え自ら行動する姿勢を育成することができた。</p> <p>③・ケース会議の実施やSC、SSWとの連携が校内で定着し、支援体制の充実を図ることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童相談所等外部機関とも連携しながら、生徒や保護者のニーズに適切に対応することができた。 ・潜在的なニーズの把握について更に教育相談体制を充実させていく必要がある。 	<p>①生徒指導方針の見直しを行い、本校の実態に即した内容に改善するとともに、職員が一丸となって組織的に指導に当たる体制を整える。</p> <p>②行事の精選を進めるとともに、継続して行う行事に関しては内容や取組についての充実を図る。</p> <p>③・SOSシート等を活用した支援ニーズの把握を推進するとともに、科を超えた日常的な情報交換を推進することで組織的な支援体制を強化する。</p>
3	進路指導・支援	<p>①基礎力診断テストを導入したキャリア教育の推進、進路行事の集中化と精選、進路資料のデータベース化に取り組む。</p> <p>②インターンシップを企業・生徒・学校それぞれの視点で見直し、より効果的な取組となるよう検証を行う。</p>	<p>①基礎力診断テストの活用状況、進路行事の精選進路資料のデータベース化ほどの程度進んだか。</p> <p>②インターンシップの改善のための検証はどの程度進んだか。</p>	<p>①新たに導入した基礎力診断テストについては、実施後に結果を分析し、本校の学力の傾向の把握に繋がった。職業適性検査の実施を見送り、労働教育を取り入れる行事の精選を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データベース化は過去3年間の企業別進路実績を作成するとともに、基礎力診断テストの結果から客観的な生徒の学力データを収集することができた。 <p>②事業所とのやり取りにe-mailの活用を試み作業の効率化を図った。また、年度途中の教育課程の変更にも柔軟に対応し、無事に終了することができた。</p>	<p>①基礎力診断テストのデータ分析、面談における生徒への活用等が今後の課題となる</p> <p>②単位認定が「実習」から「学校外の学修」に変更となったこと等を受け、インターンシップのあり方を見直し、生徒に対する動機付けをしっかりと行う必要がある。</p>	<p>①・基礎力診断テストの導入により、親子で進路について話す機会が持てよかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎力診断テストは、個々の生徒にいかに対応を反映させ生徒のその後の学習活動に行かせるかがポイントであり、徹底した検証が必要である。 ・データ化と分析は「見える化」によって誰もが情報を得ることに繋がるので有効である。 ・進路に関するデータの活用は重要であるが、アナログ的な視点からの検討も必要である。 <p>②・インターンシップについては生徒にとって社会を経験するまたない機会であり、事前学習の段階から真摯な取組を期待する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップの有効性は報告会、感想文集から理解でき、今後も企業の理解を得て実施することが望ましい。 ・課題・問題点を明確にしないと改善が図れない。 	<p>①・基礎力診断テストの導入により本校生徒の学力の傾向を客観的に分析・把握することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路資料のデータベース化を促進し、進路指導に活用することでキャリア教育の推進に繋げることができた。 ・学年に応じた進路説明会の開催等進路行事を適切に開催し、3年間を見通したキャリア教育を実践した。 ・基礎力診断テストの継続的な実施と、そのデータの分析及び活用が今後の課題である。 <p>②・インターンシップの全員実施は本校のキャリア教育の柱であり、職業観・勤労観の育成に大きく貢献している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程が変更になったことから、今後は今まで以上に生徒に対する動機付けに力点を置き、生徒の主体的な取組に進化させていく必要がある。 	<p>①基礎力診断テストの分析を進め検証を行うと共に、担任・教科担当者等がデータを活用しやすい形で提示する。</p> <p>②・工業系事業所の開拓を進め、生徒の希望に合った体験先を確保できるように努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ実施にあたり、先輩から後輩に意義や重要性を伝えさせる等、生徒が主体的に取り組める環境を整える。

4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動や小中学校との連携、地域清掃、部活動による地域貢献などを通して、生徒に「地域社会の一員である」という意識を持たせる。 ・ホームページを充実させ、迅速な情報発信を行うことで広報活動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携活動の広がり、深化はどの程度実現できたか。 ・ホームページの改定の頻度・内容はどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとの地域貢献活動(地域清掃)や、近隣の小中学校と連携した月1度のあいさつ運動を実施した。 ・ホームページに掲載する内容を早めに収集し、迅速な情報発信を行うことで広報活動を充実させた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携活動への参加がまだ一部の生徒に留まっているため、今後は全校を挙げた取組に繋げていく必要がある。 ・次年度の年間行事予定に HP 掲載のマークを導入し、掲載内容を速めに発信できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣に小・中学校があるので、工業科ならではの体験を提供でき、生徒たちも良き兄・姉となって世話をするとすばらしい企画である。 ・地域との関係は特効薬となるものはなく、日々の生活そのものが地域の評価に繋がる。ついでに「あたりまえのことをあたりまえに」できるよう日々指導していくことが大切である。 ・社会人としてあいさつは非常に大事なものであるため、あいさつ運動の継続・発展をお願いする。 ・地域連携については、教職員・保護者が率先して模範を見せることが大切ではないか。 ・情報発信を早めるのはいいことである。 ・学校HPの家庭での活用についてアンケート調査することで改善点が見つかるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回のあいさつ運動が定着し、生徒会役員や各部活動の生徒が積極的に活動に参加することで地域連携への意識を育成することに繋がった。 ・今年度はあいさつに手話を取り入れることで、人権教育の点からも成果を上げた。 ・近隣小学校との交流授業を昨年度から継続して行い、成果を上げた。 ・地域貢献活動については、事前の意識付けを適切に行い、より効果的な取組にする必要がある。 ・学校行事や部活動等の成果について、ホームページで迅速な情報発信をすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動や交流活動を通じて近隣と「顔の見える関係」を構築し、生徒の地域に対する連携意識を向上させる。 ・ホームページを利用した情報発信を更に充実させるとともに、アンケート等を実施して閲覧者の立場に立った形に改善していく。
5	学校管理・学校運営	<p>安全・清潔に過ごせる環境整備に取り組むとともに、防災教育に計画的に取り組む、地域と連携した防災体制を確立する。</p>	<p>生徒の安全のための点検・補修をどの程度行ったか。防災教育の取り組みはどのようなものであったか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各トイレの点検を行い、管理棟と実習棟のトイレの改修工事の実現に繋がった。 ・地震災害DVDを全校生徒で視聴し、災害の恐ろしさと対応を学んだ。 ・地震による火災を想定した避難訓練、生徒の災害図上訓練(DIG)を初めて実施した。地域別の集団下校のための集合訓練はDIGと同時にしない、生徒の防災意識の向上をめざした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・改修できていないトイレの点検を随時行なう必要がある。 ・改修したトイレの清掃方法の点検と改善を進める必要がある。 ・生徒の災害図上訓練(DIG)で、教員と生徒の避難危険場所の共有が図れた。その内容と取組の指針を考え、次年度につなげていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレが改修され、きれいになったので、生徒による清掃と点検はぜひ進めるべきである。 ・県の施設に共通した課題だが、全体的に暗いイメージがあるので、廊下塗装など明るくできないか。 ・定期的な避難訓練をお願いしたい。 ・隣接する小学校への災害支援等を行うことで意識の向上に繋がるのではないか。 ・災害訓練については、まず教職員がきちんと認識しているかどうか確認していただきたい。登下校や部活動の際にも起こりえるのでリスクを考える力が重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な校内の安全点検を行い、管理棟と実習棟のトイレ改修工事の実現に繋げることができた。 ・地震災害DVDを全校生徒で視聴するなど具体的で効果的な防災教育を実践した。 ・地域別に分かれて災害図上訓練(DIG)を行ったことで、生徒自らが通学路の危険箇所を把握し、それを目に見える形で共有することができた。 ・地域防災における本校の位置づけや役割について確認し、地域と連携した防災活動やより効果的な防災訓練の実施に向けた検討を行っていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の小中学校、町内会、及び県や市と連携した防災活動を推進するための働きかけを行い、実効性のある防災訓練の実施を検討する。